

人生を変える贈り物

夢を叶える「夢」を見た

- 香川真司

■ はじめに

月曜日。午前 9 時。

自宅のバルコニーで、青く広がる空を眺め、

朝日の日差しを浴びながら、一番大好きなカプチーノを飲む。

僕の 1 日はここから始まる。

いつも決まってこの時間は、この自宅のバルコニーにいる。

この場所とこの時間が一番心やすらぐ。

この時間だと、多くの方が満員電車で揺られながら通勤していることだろう。

「毎日やりたくもない仕事をやらなければならない」

「理不尽な上司や取引先の相手など、付き合いたくもない人と付き合いなくてはならない」

そんなことを考え、憂鬱になりながら通勤している人は決して少なくないはず。

人によってはもう朝礼が始まっていて、

「これからあと 12 時間以上も働かなければ・・・」と憂鬱の絶頂期にいるかもしれない。

しかし、僕は朝から東京世田谷の高級住宅街にある自宅のバルコニーで、

朝日を浴びながら優雅に大好きなカプチーノを飲んでいる。

またはセカンドハウスである、

絶景の眺望が溢れる都内高級タワーマンションで、

都会の街を見下ろしながら、

青い空と真っ白な雲に囲まれながら、大好きなカプチーノを優雅に飲んでいる。

ストレスや憂鬱とは一切無縁。

自由気ままに好きなように好き勝手の時間を過ごしている。

申し遅れましたが、姓は香川（かがわ）、名は真司（しんじ）

香川真司と申します。

僕は、高校生の時、「バレーボール」というスポーツで全国大会に出場し、

ある程度輝かしい成績を収めることが出来ました。

そして、23歳の時には投資での収益が波に乗り、

東京世田谷の高級住宅街にマイホームを手にするまで至り、

当時勤めていた会社を退職し、セミリタイヤを実現しました。

しかし、ある程度「夢」を叶えてしまうと生きがいがなくなり、

毎日の生活になにひとつ刺激を感じず、セミリタイヤを実現してから半年、

起業を決意しました。

その後、わずか 1 年。

24歳の時には IT 事業の会社を経営するまでに至りました。

そして、現在ではグループ会社 5 社の経営しており、

売上高50億円規模のグループ企業へと成長を遂げました。

都内にセカンドハウスとして高級タワーマンションにも在住し、

東京世田谷の閑静な住宅街に立ち並ぶ自宅を自由に行き来し、

優雅に暮らすことが出来るようになりました。

そして、29歳の時には、

愛する花嫁、子供を授かり、「幸せな家族」まで手に入れることが出来ました。

スポーツで全国大会出場、

23歳で東京世田谷の高級住宅街にマイホーム、

24歳で IT 会社の代表取締役、

25歳で年に億単位のお金を稼ぎ都内にセカンドハウスとして高級タワーマンションに在住、

29歳で愛する花嫁、子供を授かり、幸せな家庭を手に入れる。

肩書だけ見れば、さぞ幸せそうに見えることだろう。

なにもかも上手く行って、さぞ羨ましいと感ずることだろう。

しかし、先程も申し上げたようにある程度若くして、

これらの肩書を手に入れた輝かしいストーリーの裏側には、

生半可ではない血も凍るほどの壮絶な人生があったのだ。

絶対に表には出せない忘れ去りたい過去。裏の部分。

地を這いつくばりながらも誰よりも泥臭いことをコツコツとやってきた。

それがあったから今があるのだ。

皆、スタート地点は同じ。

そこから、どれだけ「夢」の為に足を動かし、一步一步、歩み続けるか。

時には地に這いつくばりながらも、

両手を使い、胸を使い、腰を使い、全身を使い、進み続けるか。

その差で、ゴールへ辿り着くまでの時間は変わってくる。

多くの人は、どうやって楽しく生きようか

どれだけ楽に成功しようか

そればかりを考える。

ただ、スポーツ、投資、ビジネスと色んな分野を見てきたからわかるが、

楽しんで成功する。

楽しんで「夢」が叶う。

そんな甘い話など絶対にない。

そんな考えでは絶対に夢は叶えることは出来ないだろう。

僕はこれから先、「夢を叶えたい」と願う方の為に

僕が持っている知識、スキル、マインドセットを継承したいと思っています。

僕が総額 1 億円以上のお金と 10 年という時間を費やして、

やっと手に入れた

知識・スキル・人脈

これら「全て」を否が応でも継承してもらい、

周りの人に感謝されながら思いついたらすぐに 1億円を稼ぎ出す

「香川真司」のような影響力のある人間を誕生させていきたいと思っています。

ただの一般人だった僕が成功できた秘訣・プロセスを継承します。

好きな時に好きな場所で好きな人と好きなことをする方法を継承します。

僕と同じ思いを持ち、**毎日が日曜日みたいな自由なライフスタイル**を目指すと約束出来る、

本気の方だけ本書を読み進んでください。

「夢」

みんな恥ずかしがって公の前で自分の夢を宣言しません。

というか、そもそも持ってない人もいます。

僕は恥じることなく、声高らかに胸を張って堂々と言えます。

僕の夢は、

「魅力的な人間になる」

ことです。

たった一人で 10 万人を集められるような、

そんな影響力のある人間になりたいと思っています。

こんなことをいうと馬鹿にされるし、気持ち悪いと思われるかもしれませんが、

これは心の底から本心で思っています。

なぜそこまでなりたいたいのかというと、

単純に、それくらい伝えたいことがいっぱいあるからです。

「僕が話すことで、僕と触れ合うことでなにかきっかけを与えられる。」

そんな人間になりたいのです。

僕は毎日がとても楽しいです。

なにもストレスがないし、毎日がスペシャルです。

なぜそうなれたって、そうなるように努力をしたし、今も努力をしています。

たくさん勉強して、

たくさん学んで、

たくさん成長して、

たくさん稼いで、

たくさん納税する。

ここに楽しさを覚えたからです。

僕は、

「影響力のある人間」になって、その背中を魅せて、

それを見てくれている方たちにきっかけを与えて、

僕が歩んでいる、この軌跡を楽しんでもらいたいのです。

もちろん、つらい時期もありました。

高校時代の部活では軍隊並みの厳しさで鬱になり、

ストレスで顔中にニキビが出来たり、

歩くだけで激痛が走るような筋肉痛を覚えたり、

毎日やめたいと本気で思っていました。

投資でもビジネスでも全然上手くいかないこともありました。

これは今でも全然あって、なかなか立ち直れない日ともあります。

でも、そういうのも全部僕の物語、ドラマなのです。

全てが今に繋がる、

楽しさに変わる、

それがわかってから全ての出来事に感謝出来るようになりました。

そう思えるようになってから、仲が悪い人なんていないし、

誰とでも仲良く接することが出来るようになりました。

もちろん、生きていく上で自分とは合わない、

自分とは価値観が違う、

そういう人もいます。

しかし、そんな人とは無理に付き合わなくて良いし、

そういう人には、あとで自分が大きくなってから伝えれば変わってくれるはずですよ。

少しずつだけど、

今、僕は成長しているのを実感できます。

そして、そんな僕を見て、

変わってくれた人、

変わってくれている人もいます。

今、少しでも現状から抜け出したいと思っている方、

こんな僕と一緒に、こんな僕のくだらない物語に付き合ってくれる方、

こんな僕のくだらない物語を、一緒に歩んでくれる方を心からお待ちしております。

他では絶対に見ることができないであろう

「最高のドラマ」をリアルタイムでお魅せ出来れば幸いです。

僕がこうやって書籍を書いているのも、こういう想いがあるからなのです。

この大きな物語の一番はじめとして本書を通して、

僕の経歴などお話ししていきながら、

スポーツ、

投資、

ビジネスと、それなりに結果を残してきた僕の考え方や知識、ノウハウを伝えていき、

誰にも負けない「最高のドラマ」を一緒に歩み、共に創っていければ良いなと思います。

目次

はじめに

第一章 異端児の誕生

「全日本代表」を夢見る幼少時代

鬱病、ロボットで全国大会に出場

第二章 失意の日々・・・大転落して、どん底人生へ。

Tシャツ 2枚の浮浪者から年収 600 万の 18 歳へ

23 歳で東京世田谷区の高級住宅街にマイホーム

第三章 起業家への創造的挑戦の軌跡

たったの一通のメールで起業を決意

メンターとの運命的な出会い

目には見えない「仲間」という本物の資産

おわりに

第一章 異端児の誕生

香川真司プロフィール

Shinji Kagawa's Profile

「全日本代表」を夢見る幼少時代

■東京都で生まれる

1988年8月30日。

東京都世田谷区で生まれる。2人兄弟の次男。

特に貧乏でもなく、裕福でもない普通の家庭で育つ。

■幼少時代

すぐに人を叩いたりケンカばかりするようなわんぱく少年。

とにかくわがままだった。

■小学生時代

小学一年生から兄がバレーボールをやっていたことにより、バレーボールを始める。

その頃の夢は「全日本代表」

日の丸を背負い、活躍すること誓う。

最高成績は東京都ベスト8

■中学生時代

全国大会優勝常連の私立中学校からの推薦を断り、近所の公立中学校へ進学。

遊び半分の部活動であった為、たくさんの練習が出来る環境ではなかった。

この時 150 センチだった身長が 180 センチ近くまで一気に伸びる。

最高成績は東京都ベスト 8

鬱病、ロボットで全国大会に出場

■地獄の高校時代

入学費、学費無料など甘い誘惑に釣られることなく、数々のスポーツ推薦の話を断り、遊び半分の部活動に嫌気が差していた為、関東一厳しいスパルタ学校へ進学を決める。

しかし、これが「地獄」の始まり。

卒業式が終わってすぐ翌日から練習がスタート。

その時、初めて今まで自分が努力の「努」の字もしていないことに気がつく。

あまりのハードな練習に、自ら志願して入った学校を今すぐやめたいと願う。

軍隊並みの厳しさで、全てを管理され、自分の感情など全くなかった。

それはまるでロボットのようなようだった。

誰のために何のためにバレーボールをやっているのか全くわからなかった。

大好きだったバレーボールがいつしか大嫌いになっていた。

あんなにバレーボールが好きで、

「毎日練習したい」

「ずっとボールを触っていたい」

四六時中バレーボールのことを考えていたのに、

気付いたら練習が大嫌いで、

「早く練習が終われば良いのに」

「早く帰りたい」

「どうやってこの環境から抜け出そうか」

「どうやってやめようか」

そんなことばかりを考えるようになっていた。

誰よりも早く体育館に来て、

誰よりも体育館を出るのが遅かった小学生、中学生時代がまるで嘘のようだった。

毎日やめたいと思ってもやめることすら出来ず、

やめる決断力もなく、

日々の厳しい練習に「耐」え、

日々の体罰に「耐」え、

顔中はストレスでニキビだらけ。

本業である勉強にも手を付けられず、ほとんどの授業は寝続け、

放課後の練習のために体力を温存していた。

しまいには、歩くことすら嫌になっていた。友人に、

「一緒に自動販売機まで飲み物を買っていくの付き合っ」と言われても、

階段の昇り降りすら面倒で、体力が奪われることを怖れて断る始末。

いつしか友人も離れていき、クラスでは完全に孤立。

本当に毎日、

「やめたい」

「逃げたい」

「どうやったらこの環境から抜け出せるのか」

それだけを考えていた。

バレーボール自体も自分がやりたいプレーをするのではなく、

「型」に嵌められ、完全にやらされていた。

自分がやりたいプレーをするのではなく、

「監督に怒られないプレー」

いつしかそんなスタイルになっていた。

辛かった。

本当に本当に本当にとっても辛かった。

普段通り練習に行く予定が、

祖父母の家に勝手に足が動いていた時もあった。

祖父母の家に一週間くらい逃げ出したこともあった。

毎日本気でやめたいと思った。

365日×3年間。

何度も何度も何度もやめようと思った。

ただ、

「全国大会へ出場する」

「全日本代表になる」

という昔からの「夢」だけは絶対に諦めきれなかった。

ここで逃げてしまえば、

何の為に今まで生きてきたのか、

何の為に今まで頑張ってきたのかわからなかったし、

なにより、夢を諦めることがカッコ悪すぎて、

絶対に「夢」諦めることが出来なかった。

「絶対に夢を叶える！」

そう胸に誓った。

その日からどんなに厳しくてもどんなに辛くても、

夢の為だと割りきって初めて自ら「努力」をし始めた。

中学校から食事制限をしていたが、さらに制限をかけた。

誰よりも早く体育館に来て、誰よりも遅く帰ることもやり直した。

練習が終わっても、自らトレーニングルームに駆け込んだ。

この時が人生で一番自分を追い込んだと思う。

そして、全国大会で活躍していた粒揃いの先輩たちを出し抜き、

スターティングメンバーを勝ち取る。

夢であった「春の高校バレー」出場を決める。

この時、本当の「努力」の意味を知る。

やらされるのではなく、自らやる。

絶対にブレない大きな軸、夢を持って、

ただそれを叶える為だけに全力を費やす。

それが本当の努力なんだということを実感する。

そして、夢を叶える為には

本当の「努力」と「諦めない強い心」が必要だということ学んだ。

同時に、「夢は諦めなければ叶う」ということを確信。

どんなに環境が悪くても、

どんなに頭が悪くても、

どんなにカッコ悪くても、

どんなに運動が出来なくても、

どんなにクソみたいな人生だろうと、

頑張れば変わる。

人生をひっくり返すことが出来る。

それを多くの人に伝え、魅力的な人間になることを決意する。

たった一人で 10万人を集められるような魅力的な人間になり、

誰にも真似出来ないエキサイティングな人生を送る！

そう決めた。

高校時、最高成績は全国大会ベスト 16

ここで、バレーボール人生に終止符を打つ。

第二章 失意の日々・・・大転落して、どん底人生へ

T シャツ2 枚の浮浪者から年収600 万の18 歳へ

■なんの価値もなかった 2 年間

将来本当にやりたいことはなんなのか。それを考え始めたのが高校 3 年の時だった。

このまま普通に大学を卒業し、定年までずっと平社員で、

貰える給料は月30 万くらいかと将来を想像し絶望する。

一生サラリーマンで良いのだろうか。

それで本当にたった一人で 10 万人を集められるような魅力的な人間になり、

誰にも真似出来ないエキサイティングな人生を送ることが出来るのだろうか。

そんなことを考えて、エスカレーターで進学した私立の大学を、

親にも相談せずたったの2ヶ月で退学した。

もちろん、そんなことを知らなかった親は退学したことを後から知り、

ひと目もはばからず声を上げながら泣いていた。

やっと口を開いたと思ったら、第一声。

「家を出て行け！！」

高校生の時にもらっていた小遣いの余りで貯めた 30 万と T シャツを 2 枚。

小さな黒のバックに詰め込んで家を出た。

ここから 18 歳でホームレス生活がスタートする。

■ホームレス時代

家もない。

服もない。

お金もない。

仕事もない。

頼る人は高校の後輩一人しかいなかった。

週に 2、3 回彼の家泊めさせてもらい、

食事まで用意してくれ、

洗濯もしてくれた。

お風呂も貸してくれた。

ゲームまで用意してくれた。

洋服も用意してくれた。

この後輩には今でも本当に感謝している。

彼がいなければ今頃そこらへんでのたれ死んでいただろう。

週 2、3 回家泊めてくれたが、それ以外の日は漫画喫茶。

今でもはっきりと覚えている。

1,575 円のナイトパックプラン。

これが普通に入るより安くてお気に入りだった。

俗に言う「ネットカフェ難民」だ。

高校生の時は全国大会に出場し、

500 人程いる学校中の生徒からちやほやされていた

あの輝かしい日々からは、とてもこんな風になるとは想像出来なかった。

歯ブラシも髭剃りも髪を切るお金もない。

歯は歯周病で荒れ、

髪も髭もボーボーで傍から見たら本当に浮浪者だっただろう。

ただ、当の本人は毎日の食事をどうするか、

宿をどうするかで頭がいっぱいでそんなことには気付かない。

思い出すだけでも恥ずかしい。

ただ、そんなある日、長男である兄から連絡が来た。

「お金をあげるから俺の家に来てデータ入力をしてくれないか」という連絡だった。

これが第二の人生の始まりだった。

■年収 600 万を稼ぐ 18 歳へと変身

データ入力なんてやったことのない僕にとって、人生初めてのデータ入力作業だ。

とにかく面倒くさかったのだけは覚えている。

兄に言われたのは、

「このデータを夜23時まで打ってくれ。」

ただそれだけだった。

簡単な説明はあったものの、本当にそれだけ。

全てが初めてだったが、戸惑いながらもただただ打ち続けた。

その作業が終わるのは、夜の23時。

気付けば僕のパソコンには文字がいっぱいだった。

それと同時に自分がいくら稼いだのかも、画面に表示されていた。

どれぐらいだっただろう？

おそらく 10 万円分くらいあったと思う。

僕はそこで 1 万円だけ受取り、残りは兄に渡した。

この時、こんなことをしてお金がもらえるなんて最高だ。

そう思い、兄からどうやって稼いでいるのか、

稼ぎの仕組みを全部教えてもらった。

そうして僕は初月から 50 万円を稼ぎ出し、

年収は 600 万円を超える 18 歳へと変身した。

20 歳までの 2 年間、ずっとこの作業だけに徹底し、稼げるだけ稼いだ。

最後の方は週に 2 日だけ行うだけで月に 50 万円を安定。

ここで 20 歳にして 1,000 万という貯金が出来た。

お金に困ることはなくなり、

可愛い彼女も出来て、いつのまにか家にも戻ることも出来た。

毎日、大好きなゲーム、漫画だけを相手して、

たまにデータ入力を行うだけで月に 50 万円が安定して入っていた。

ある程度、自由な生活を送ることが出来ていた。

そんな時、当時付き合っていた彼女との結婚を意識し、

楽に稼げていたこの生活をやめて会社に就職することに。

■サラリーマン時代

就職したのは生鮮魚介類卸売会社。

やっていたことは、電話応対やデータ入力などいわゆる一般事務。

全てが初めての経験で、これはこれでとても勉強になり、

入社して良かったと今でも思っている。

社会に出たことがなかった僕にとって大きな社会勉強になった。

高校時代に厳しい経験をしていた僕にとって、とても楽な仕事に感じた。

机に座ってちょこっとパソコンを触っているだけでお金がもらえるなんて、

楽で楽で仕方なかった。

ただ、

それが良くなかった。

なにも考えることなく、毎日同じことをこなしているだけで、

ある程度生活することが出来る為、

ここでまた、なにも努力のしない日々を送ってしまったのだ。

「自分一人で 10 万人を集める」という夢はどこか薄れ、

こんな楽なことをして稼げるなら努力する必要がないと思ってしまっていたのだ。

そんなある日、友人との会食で投資をやっている一人の人物に出会った。

23 歳で東京世田谷区の高級住宅街にマイホーム

■投資家としてデビュー

これが僕のターニングポイントとなる。

そして、今の僕の投資のメンターでもあるのがこの人だ。

20 歳で 1,000 万という金額を持っていたということ、

それを自分自身で稼いでいたということ、

上記 2 つのことを友人から聞いていたのだろうか。

会ってすぐ、

「君はお金のおいがするね。」

と言われ、

気に入ってもらえたのか、

何故かすぐにその人がやっていた投資ノウハウを教えてもらった。

しかし、投資を始め、たったの一ヶ月で 500 万を失う。

本当にバカだった。

「絶対にやるな！」

「私の教えだけを守りなさい！」

そう言われていたのに、

ルールを破り、自己流で投資をし、たったの一ヶ月で 500 万円を失った。

「俺はダメだ！何をやっても意味が無い！そんな人間生きている価値などない！！」

自信を一気に喪失し、絶望し、自殺さえも考えた。

情けなさすぎて、彼女にも合わず顔がないし、本気で死のうと思った。

ただ、そんな時にメンターから言われた一言が胸に深く刺さった。

「失ったモノはもう戻ってこない。無いものは無い！！」

お前にはまだ残っているモノがあるだろう。それを残して死ぬのか。」

「まだ自分にあるもの」

指を数えながら考えた。

残りの 500 万。

母親。

父親。

兄。

愛している彼女。

まだ幸いにもあと 500 万ある。

表は、会社員をする傍ら、裏では投資をし、

23歳の時には東京世田谷区の高級住宅街にマイホームを手にするまで至り、

会社を退職し、セミリタイヤを実現したわけだが、

大きな目標を達成してしまい、生きがいがなくなってしまった。

はじめはお金が欲しくて欲しくてたまらなかった。

死ぬほどお金が欲しかった。

「毎日が日曜日でもしなくてもお金が入ってくればいいな」とか、

「楽しんで稼ぎたいな」とか、

非現実的なことばかり考えていた。

しかし、ある程度それが満たされた今では、

ただ、毎日を日曜日のように遊んでいるだけでは、

むなしいだけだと気付いたのだ。

ただただ銀行の口座の数字が増え続けるだけで、

なにひとつ価値を生み出していない自分に嫌気が差し始めた。

第三章 起業家への創造的挑戦への軌跡

たったの一通のメールで起業を決意

■どこからか入ってきた、たった一通のメールから起業を決意

ある日、わけのわからない人から自分の受信ボックスへメールが届いた。

発行者のブログを辿ってみれば、

たった一通メールを送るだけで数百万を稼いでいるという。

そして、世界中を旅しながら年収は1億円。

もはや、最初は信じられなかった。

「そんな奴いるわけないだろう」

「どうせ嘘だろう」

そんな風に思っていた。

しかし、毎日送られてくるメールを読んでいくと、

この人から発信される情報、文章、旅をしている写真を見て、

「本物」だということを確信した。

次第に、自分もメール一通だけ送って、世界中を旅したい。

パソコンだけ持って世界中を巡って、見たことのない世界をみたい。

そう思うようになっていた。

投資だけではお金という紙切れだけが増えていくのに対し、

ビジネスは、

「人」

「知識」

「スキル」

これら全てが「資産」として残ることに気付き、ワクワクが止まらなかった。

起業することを一瞬で決意した。

ただ、はじめは全く成果が出なかった。

起業を決意してから半年間、全くもって結果が出なかった。

成果が出ても数万円。

月に数万円出れば良い方だった。

かたや、ビジネスを初めてから数ヶ月で数百万を稼ぐ若者がいっぱい出てくる。

それなのに自分は半年たっても全く成果が出ない。

「自分は本当にセンスがない、ビジネスをやる資格などない。

誰からも必要とされない価値の無い人間なんだ」と絶望する。

しかし、このままずっと負けたままでは終われない。

過去から学んだものの再度思い出し、

絶対に結果を出すべく、諦めずに勉強を続けた。

そして、1年くらいたった時、遂に少しずつ成果が上がるようになってきた。

この時、投資の時と同じようにビジネスにも「正しいやり方がある」ということを知る。

自分の力だけで、お金を使わずにがむしゃらに頑張るよりも、

すでに成功している人を見つけ、

その人の真似をして、

ただただ愚直に行動することで、最短で結果が出ることを実感した。

そして、プライドを捨て結果の出ていた年下である起業家に大金を払い、ビジネスを学んだ。

友人たちからの飲み会の誘いも断り、

毎日、遊ぶ時間も寝る時間も削って血眼になりながら、

ずっとパソコンの前に向かって作業を続けた。

彼女を相手する時間もなくなり、辛い時の自分を支えてくれた最愛の恋人も失った。

しかし、全ては「夢」を叶える為・・・

来る日も来る日もパソコンの前で一人、黙々と作業をひたすら続けた。

友達も恋人も失い、遊ぶ時間も寝る時間もない、

そんな惨めな辛い日々が続いた。

また自分の悪いところが出て、弱音を吐き出しそうになった時もあった。

結果の出ない日々に現実逃避したくなった時もあった。

毎日、給料を好き勝手使っている同級生たちを羨ましく思う時もあった。

いつも楽しそうに集まっている飲み会に参加したいと思うこともあった。

外食して美味しいご飯を食べたいと思う時もあった。

泣き言を言いたい時もあった。

大好きなゲームや漫画だけ読んでいたいと思う時もあった。

休みの日は彼女と楽しくデートしたいと思うこともあった。

彼女とヨリを戻したいと思うこともあった。

もう諦めようと思う時もあった。

ただ、自分が人生で一番辛い思いをしてまで学んだ教訓だけは、

忘れることは出来なかった。

「絶対に夢を諦める」ことだけは出来なかったのだ。

たった一度きりの人生。

自分がやりたいことをして後悔のないように生きたい。

自分だけしか出せない「価値」を提供して、

お金も人も集めて、10万人の前で想いを伝えたい。

どんなに辛いことがあろうが、

それを乗り越えた時の達成感。

それをもう一度味わいたかった。

だから、どんなに辛くても結果が出なくても諦めずに行動した。

あの日思い描いた「夢」を絶対に叶える為に・・・

バカなりにもがき、苦しんだ結果、

お金を稼ぐ方法（テクニック）を求めるのではなく、

お金を稼いでる人、成功者に「なる」ためのマインド・思考を

求めることが大切だということがわかった。

「昔は友人なんていない。」

「人と人の繋がりなんてどうでもいい。」

そんな風に思っていたが、

全てに関わるのは、

「人」

人との出会いが大切なんだということに気が付いた。

そして、同時に自分には「メンター」が必要だということを感じ始めた。

魅力的な人間になるには、自分が魅力的にならなければいけない。

成功するためには、成功者と仲良くならなければいけない。

だから、とにかく僕はそこから自分が魅力的な人間になる為に、

コミュニケーション、知識、スキル、マインドセットを徹底的に磨き続けた。

そうやって、自分の魅力を高める為に自分を成長させていたある日、

先ほど申し上げた 1 億を稼ぐ年下の起業家と運命の出会いがあったのだ。

メンターとの運命的な出会い

■運命の出会い

1億を稼ぐ成功者と出会い、教えを受けることで、

人生は大きく変化し始めた。

月数万円だった収入がいきなり数百万まで跳ね上がり、

ビジネスだけでも収入源を確立し、

「人に価値を与えながらお金も人も集まってくる」

昔、夢見た「理想の人生」に少し近づけることが出来てきた。

学んで、成長して、自分がどんどん強くなっていき、

それと共にお客さんが増えていく。

どんどんどんどん自分がレベルアップしていく、

その感覚がたまらなく気持ち良かった。

日々のエッチとは比べ物にならないほどの快感だった。

お金という紙切れだけが増えていく、そんなつまらない日々

友人も恋人も全部失ったむなしく時だけが過ぎていった絶望の日々

そんな日々から抜け出し、さらなる大きな「夢」を叶える為、新たな旅立ちに出る。

目には見えない「仲間」という本物の資産

■仲間

メンターと出会い、人に価値を与え、感謝されながらお金を稼げるようになり、

投資とビジネスで複数の収入源を手にし、

それを原資に新しい案件へと参加し、資産を拡大。

23歳で東京世田谷区の高級住宅街にマイホームを手にし、

さらには、25歳で都内にセカンドハウスとして高級高層タワーマンションに在住し、

「香川真司」のことが大好きな暖かいお客さんに囲まれながら、

年に億単位のお金を稼ぎ、毎日が日曜日のような自由なライフスタイルを手に入れました。

パソコン一台だけあれば、どこでも生活でき、

時間的にも経済的にも場所的にも全てが自由。

好きな時に好きな場所で好きな人と好きな事をする事が出来るようになりました。



でも、毎日が日曜日なんていっていますが、正直そんな生活すぐ飽きてしまいます。

夢を達成してしまうと生きがいがなくなってしまうです。

はじめは、お金が欲しくて欲しくてたまらなかったです。

死ぬほどお金が欲しかったです。

「毎日が日曜日でなにもしないでお金が入ってくればいいな」とか、

「楽しんで稼ぎたいな」とか、

非現実的なことばかり考えていました。

しかし、ある程度それが満たされた今では、

ただ、毎日を日曜日のように遊んでいるだけでは、むなしただけだと気付いたのです。

今、僕の次の目標は、

「毎日汗水たらしていやいや働いている人たちを早くその生活から抜け出させたい。」

「毎日楽しく充実した日々を過ごす為に有能な同士の 1 人でも多く集めたい。」

そして、その人たちから **「ありがとう」** と言われたいです。

それが生きがいになればいいなと思っています。

あなたには、自分と同じような思いはさせたくないです。

どんなにクソみたいな人生でも、

「諦めないで頑張れば変わる」

ということを伝えていきたいのです。

今ではこれが僕に与えられたミッション。

使命だと思っています。

綺麗ごとかも知れませんが、これは本心で言っています。

本気で心の底から思っています。

ただ、人を選ばず誰にでも良い顔するわけじゃないです。

僕だって普通の人間です。

嫌なものは嫌です。

「綺麗ごとばかり言ってんじゃねーよ。」

「詐欺まがいなこと言ってんじゃねーよ。」

なんてコメントもたまにもらいます。

上記の様なコメントを見ると、とても悲しい気持ちになります。

別にあなたを強制的にお金持ちにしたいわけでもないですし、

ついてきてくれた方たちから

「ありがとう」と言ってもらえたら、それで良いと思っています。

変な奴だなと思えば、僕を無視すれば良いだけです。

上記の様なコメントをくれる方は、今すぐ立ち去ってくれば良いです。

立ち去ったところで別に僕の人生は変わりません。

これからも今まで通り自由な毎日を送り、

ついてきてくれた方たちと喜びを分かち合い、

楽しく豊かな人生を送るだけです。

僕は誰にでも良い顔するほど優れた人間ではないです。

敢えてもう一度言いますが、

変な奴だと思えば、今すぐ立ち去った方が良いでしょう。

お金持ちになるだけが「幸せ」とは限らないですし、

お金持ちになったら「幸せ」になれるわけではありません。

ただ、

お金というのはあっても困るものではないと僕は思います。

僕のメールを楽しみに待っている人も沢山います。

毎回、メールの返信を送ってくれる方だっています。

僕も本気になってまっすぐ向き合っ接しています。

僕の力はまだまだ小さいですが、少しでも力になればと思います。

回り道なしで一直線で突き進んでいきましょう。

最後になりますが、

僕はもう十分お金は持っています。

こうやって表に出て、批判を浴びてまで情報を発信しなくても、

自由に暮らしていけるだけの金額は持っています。

僕についてきてくれる人を多く募るつもりもないですし、

情報を発信しなくてもなにも困りません。

しかし、

僕についてきてくれている誠実で真剣に僕から全てを吸収してやろうと学んでいる

弟子のような方たちから、

「もっと香川さんをみんなに知ってもらいたい」

「もっと表に出て欲しい」

「もっといろいろ学びたい！発信し続けてください」

こういった声に心を大きく動かされて、

表に出ることも決めまし、情報発信を続けていこうと決めました。

冒頭から最後まで何度も言っていますが、

「綺麗ごとばかり言ってんじゃねーよ。」

「詐欺まがいなこと言ってんじゃねーよ。」

上記のようなコメントをくれるようなマインドの腐った方は絶対に関わらないでください。

周りの人に役に立つことや、周りの人が得する情報を誰にも教えず、

独り占めするような価値観の人とは絶対に僕とは合いません。

世の中には、

本当に良い情報をシェアすることで、自分が大きくなれるなら、

その情報を公開しても構わないと思う人はたくさんいます。

この価値観がわからないのであれば、

まずはこの価値観がわかるまで勉強しなおした方が良いでしょう。

これが理解出来るようになってからまた来て下さい。

僕は、僕に期待してくれている方にだけ教えていきたいし、継承していきたいのです。

だからこそ、無駄なところに労力は一切使いたくないのです。

ご理解頂ける方のみ、ついてきてください。

気付いている方もいるかも知れませんが、

上記の内容は全て、個人向けにお話しさせて頂きました。

僕は企業さんとも取引をしていますし、

ミュージシャンや俳優さん、女優さん、モデルさんなど、

面白い人がいたらプロデュースしたり、集客のお手伝いをさせてもらってます。

テレビに出てる誰もが知っているような、とても綺麗で可愛い方が、

実は僕にきっかけをもらってたりなんてこともあるかもしれません。

結局、なにが言いたいのかというと、

多くの場合、企業間取引をしていると、あまり個人を相手に取引をしません。

それは圧倒的に時間効率が悪いからです。

単純に得られる利益と時間を考えたら、面倒くさいのです。

多くの方はどれだけ楽に売上を上げられるか、

いかに自分が儲けられるかしか考えていないのです。

だから、個人に対してはあまり相手にしてくれません。

僕は別にそれが悪いとかそういうことを言っているわけではありません。

むしろ、当たり前だと思っています。

でも、僕はここもあえてやってやろうと思ったのです。

企業向けも、個人向けも両方やってやろうと思ったのです。

確かにすごい大変だし、

効率を考えたらビジネスマンとしてはめっちゃめっちゃ馬鹿にされるだろうと思います。

けど、僕は本気で教えることが好きだし、

それで、喜んでもらって感謝してもらったら、

それだけで幸せなのです。

目先の「お金」という目に見える価値ではなく、

目には見えない

「信用」とか

「信頼」とか

「仲間」とか

「愛」とか

に本当の価値があるのだと気付いたのです。

だから、僕は

「僕を必要としてくれる人は絶対に誰ひとり蹴落とすことなく本気で成幸まで導く！」

そう決めました。

お金という目に映る価値に捉われずに、

目に見えない価値を資産として持つことが、真の成功者であり、真の大富豪です。

それに気付いてから本気で僕くらいしか、

「幸せ」を目指せないのではないかと思えてきたのです。

こんなとても長い自己紹介を最後まで読んで頂き本当にありがとうございました。

共に支え合って成長していき、一緒に真の成幸者になりましょう！！

■おわりに

僕も最初はお金を稼ぐ方法が全然わからなくて、

全く稼ぐことが出来なかった時期がありました。

その時期の事を思い出すと、是非なにか力になれば良いなという思いが一層強くなります。

僕はブランド物着飾って、ワイン片手に高級ホテル泊まってるような人種じゃないですし、

高級外車を乗り回して、女性をはべらかしているような人種じゃないです。

ジャージ来て、居酒屋でビール飲んで、

そこらへんのホテルに泊まることなんて日常茶飯事です。

初対面ではなにか近寄りがたいとよく言われるのですが、

仲良くなれば、ただのアホで馬鹿な若者です。

そんな感じの普通の一般人です。

でも、その分他の人とは違って近い位置で接することが出来るのかなと思います。

是非、気軽にご連絡頂ければと思います。

これから先、ステージを上げて行きたいと願う方の為に、

僕が持っている知識、スキル、マインドセットを継承したいと思っています。

僕が総額 1 億円以上のお金と 10 年という時間を費やして、やっと手に入れた

業界屈指の知識・スキル・人脈

これら「全て」を否が応でも継承してもらい、

周りの人に感謝されながら思いついたらすぐに 1 億円を稼ぎ出す

「香川真司」のような影響力のある人間をどんどん誕生させていこうと思っています。

ただの一般人だった僕が成功できた秘訣・プロセスを継承します。

好きな時に好きな場所で好きな人と好きなことをする方法を継承します。

僕と同じ思いを持ち、**毎日が日曜日みたいな自由なライフスタイル**を目指すと約束出来る、

本気の方だけ二人三脚でタッグを組んで共に成長していきましょう。

あなたの参加を心からお待ちしております。

ありがとうございました。

香川 真司